

令和6年度 学校評価【全日制】

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 工業高校の特色を生かした多様な学習ニーズに対応できる指導の充実や組織的な授業改善に取り組む。魅力ある新校を創造する。</p> <p>② 専門教育充実のため、資格取得の推進、企業や大学、専門学校等との連携など、工業高校としての魅力をより一層充実する。</p> <p>③ 学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的活動を支援する。</p>	<p>① ICTを活用した組織的な授業改善を推進する。また成績評価等処理におけるチェック体制を工夫する。新校の教育課程を策定する。</p> <p>②ものづくりコンテストの挑戦を支援する。また、資格取得に向けた関心・意欲を向上させる。校外見学実習の実施や企業・上級学校等との連携事業を推進する。</p> <p>③生徒会の各種行事への主体的な活動を促進し、様々な地域貢献活動を通して、生徒の自己肯定感を高める。また業務低減に向けた取り組みをICTなどを有効活用し、積極的に推し進める。</p>	<p>①ICT利活用がテーマの研究授業を推進し具体的な方策を共有するなど組織的な授業改善に取り組む。1年生と2，3年生とでは評価方等異なるため間違えないように工夫する。</p> <p>②ものづくりコンテストの課題に財政的な支援を行う。学習内容や資格取得が、活かされている場面を紹介し、授業や資格取得への関心・意欲を促す。朝や放課後に資格取得に向けた指導・補習を行う。</p> <p>③文化祭・体育祭・球技大会など、生徒会の各種行事や地域連携行事等活用し、生徒同士の人間力を高める。</p>	<p>① ICTを活用した科目が増えたか。生徒アンケートを実施し学習効果の肯定的な意見が8割を超えたか。 また入学年度の違いによる成績処理の間違いが起きず職員がわかりやすい案内が出来たか。</p> <p>②ものづくりコンテストに参加できたか。購入した道具や材料が活かされたか。資格に関する情報の発信や相談などをどれだけ対応できたか。受検者数が増加したか。また、合格率の維持・増加はできたか。</p> <p>③生徒会活動や部活動を通じて、生徒の自己肯定感や他者への理解を高めることができたか。</p>	<p>①研究授業ではICTを活用した発表が成された。生徒による授業評価前期アンケートでは肯定的な意見がほぼ8割を超えた。成績処理では評価方法による事故防止に努めた。</p> <p>②ものづくりコンテスト電子回路組立部門出場にともない財政的支援を行った。その結果、ペア部門で準優勝となった。</p> <p>③生徒会が中心になり、各種行事を企画運営した。体育祭は、予行が雨で中止となかったが、体育祭当日は快晴となり、無事終了した。また昨今の暑さを考慮し、夏季球技大会を実施せず、冬季球技大会を2日間の実施にするなどした。</p>	<p>①ICT利活用した研究授業の情報を共有し授業改善を図る。成績処理においては継続して注意すると共に間違いが起きない行程管理を検討する。</p> <p>②ものづくりコンテスト参加生徒の3年間を見据えた指導が必要である。</p> <p>③体育祭は、新しい種目を取り入れるなどして、大変盛り上がり、生徒が満足のいく内容であった。</p>	<p>①模範的なICTを活用した授業を動画で共有するなどして授業改善に活用して欲しい。</p> <p>①授業評価アンケートは、具体的にどのような点が肯定的な結果に繋がったのかを分析していただきたい。また、否定的な結果を課題抽出の機会と捉えて対応していただきたい。</p> <p>②高校生ものづくりコンテスト電子回路組立部門の指導は評価できる。指導方法の組織的な共有や財政的支援等、継続的な生徒支援をして欲しい。また、外部に発信し、魅力向上につなげて欲しい。</p> <p>②資格取得については、何に活用できるのかという視点からのアプローチし、資格取得を促進した方がよい。</p> <p>③学校行事を生徒が主体となって企画運営する体制は今後もさらに充実させてください。</p>	<p>①ICTを活用した研究授業を行うことができた。ICTを活用していない授業の中には、活用するとさらに生徒の学習が促進されると思われる授業が多くあるので、引き続き活用に向けた研修が必要である。また、成績処理のまちがいの原因は多岐にわたるので、小さなヒヤリハット事例を有効に活用し、事故防止に努める必要がある。</p> <p>②高校生ものづくりコンテストで準優勝に導いたことは評価ができる。今後とも、コンテストに参加できるように指導体制の充実と継続性や財政的支援の仕組みを構築する必要がある。また、コンテストの他、資格や検定にチャレンジする生徒の意欲を向上させる工夫が必要である。</p> <p>③天候にあわせ、予行を行わず体育祭を行うなど、柔軟に対応できた。また、生徒の安全を考え、熱中症等を考慮し夏の球技大会を中止し、冬に充実した球技大会を行うことができた。</p>	<p>①学校内外の模範的授業を動画で共有する等、多くの職員が参加でき、ICTを活用する授業にチャレンジしたくなるような研修を行う。また、成績処理のヒヤリハットを見逃さず、丁寧に対応し、改善と啓発を行う。</p> <p>②指導体制の充実と継続、そして財政的支援の仕組みを構築する。また、コンテスト以外にも資格や検定に挑戦する生徒の意欲を向上させる工夫を検討する。具体的には、指導方法の見直しや改善、指導者のスキルアップ研修の実施、予算の位置づけ、成功事例の共有、資格や検定の重要性の生徒への説明など検討する。</p> <p>③生徒会を中心として、生徒主体の学校行事をさらに追求する。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を充実するとともに、基本的生活習慣の確立に向けたきめ細かい生活指導に取り組む。</p> <p>②部活動の活性化や各種コンテスト、競技会への参加を通して、生徒の達成感、連帯感、責任感を涵養する。</p>	<p>①個に応じた支援を行うためSC、SSW、教育相談コーディネーターとの連携を密にし、支援体制を充実する。また、各種講演や身だしなみ指導を通じて規範意識を養う。</p> <p>②生徒が文化祭・体育祭・球技大会などの生徒会行事を積極的に取り組む体制を整え、生徒の主体的な行動を</p>	<p>①サポートドックや教育相談会議など生徒情報の共有を密に行う。講演については各学年段階にあった内容を精査し目的にあった内容にする。</p> <p>②生徒会の各種行事について、生徒が主体的に取り組む体制を構築し、部活動や各種行事への活性化を図る。</p>	<p>①サポートドックや教育相談会議が有効に機能したか。身だしなみ指導を受けた生徒数が昨年より減少したか。講演後のアンケートを実施し肯定的な意見が8割を超えたか。</p> <p>②各種行事終了後、アンケートを実施し、生徒会行事への参加意識や活動意識が高まり、各種行事への充実が</p>	<p>①システムの不都合などあったが、SC、SSWとの連携は上手くいった。身だしなみ指導件数は昨年よりも増加していた。アンケートは概ね肯定的な意見だった。</p> <p>②クラスルームを用いた目安箱を設け、実施には至らなかったが、全校生徒へ夏季略装の提案を実施するなど、生徒からの意見を積極的に取り入れ、主体的な活動を実施した。</p>	<p>①半期を通して同じ人物が複数回指導対象になっているため、特定の生徒への指導の改善が必要である。</p> <p>②生徒会から生徒へ、積極的な情報発信を行うことで、学校全体の活性化を推進した。</p>	<p>①目立たないが、潜在的に支援が必要な生徒が取り残されない支援体制を作り上げてほしい。</p> <p>①指導については、その指導内容がなぜ必要であるかを説明できているか検証してもらいたい。</p> <p>①城北工業高校を訪問すると、気持ちの良い挨拶のできる生徒が多いと思う。今後もしっかりとした挨拶のできる生徒指導をお願いしたい。</p> <p>②提案をすることは、実施できるかに関わらず、生徒自身の当事者意識や</p>	<p>①サポートドックを軌道に乗せ、SCやSSWと連携し、生徒支援に当たることができた。また、生活指導では全体的な指導は減ったものの、特定の生徒への指導が多くなった。今後とも指導と支援の両面から適切なアプローチを模索する必要がある。</p> <p>②ICTも活用した「目安箱」等を構築して、生徒に校則を考えさせ、主体的に守らせる取組を行った。変更するまでの意見は醸成されなかったが、生徒会の活動の活性化につながった。</p>	<p>①校則指導について、校則を検証しつつ、生徒・保護者にその必要性について理解を得る指導を追求する。また、生徒が主体的に校則を考える取組を継続する。生徒の自主的・主体的活動の促進にも引き続き取り組む。</p> <p>②サポートドックを活用し、支援の必要な生徒を取り残さない体制を継続する。</p>

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			全面的にサポートする。		図られたか。			提案力の育成のため、今後も継続して実施してもらいたい。		
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導、支援の充実を図る。 ②これからの時代に必要な資質や能力を育成するためのキャリア教育を推進する。	①生徒が広い視野を持って、進路選択し自己実現できる指導・支援を行う。 ②様々な取組により、生徒が自己理解をしつつ、進路選択に必要な資質や能力を向上できるキャリア教育を推進する。	①進路説明会やインターンシップ等を周知し、参加者の感想等アンケート結果も周知することで、生徒の積極的な参加を促す。 ②内容やワークシートを学年に応じて考えていくことで、生徒に必要な進路ガイダンスのカリキュラムを検討する。	①生徒の説明会やインターンシップ等の参加率を向上させることができたか。 また、最終的に進路実現につながることができたか。 ②キャリアパスポートの活用を促し、生徒にとって進路選択に役立つ進路ガイダンスを実施できたか。	①新たに4月に3年への進路説明会を実施した。インターンシップの参加者は、昨年度の9名から21名に増加した。 ②進路ガイダンスでは約86%の生徒が興味関心を持って、進路選択への意識が向上したと回答している。	①インターンシップでは製造分野等の受入先の開拓と、生徒への周知を検討し、より多くの参加を促したい。 ②キャリアパスポートの内容を再検討し、3年の進路活動の際の振り返りに役立つページを盛り込みたい。	①インターンシップの受け入れする企業等に対して、参加者が少なすぎると、就職希望者全員がインターンシップを体験できることを目標として指導して欲しい。 ①進路の状況は指導・支援の実績を反映したものとして評価できる。説明会やインターンシップへの参加促進については、生の声を活かしてはどうか。 ②学年に応じたキャリアガイダンスをしっかりと行っている。	①進路説明会を行い、保護者の進路活動への理解を深めることができた。また、インターンシップへの参加者を増やすことができた。しかし、参加者数にはまだ課題が残っている。 ②進路ガイダンスによって、進路選択への意識を向上させることができたがさらに意識の向上を目指す必要がある。	①インターンシップの参加者の経験談などを下級生に伝える仕組みを作るなど、インターンシップの参加者数を更に増やし、職業観の育成や社会とのミスマッチをなくす取組を行う。 ②進路ガイダンスを充実させるとともに、キャリアパスポートの内容を改善し、進路意識のさらなる向上をめざす。
4	地域等との協働	①地域産業や地域社会との連携、協働による教育活動を充実する。 ②地域や中学生に工業高校の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。	①地域産業、地域社会と連携した教育活動を継続する。工業推進Gや生徒支援Gと情報共有し、組織的な取組にする。 ②生徒の活動の様子が伝わるような魅力ある情報発信に取り組む。HPとSNSの活用を充実させ、中学生及びその保護者に効果的に情報を届ける。	①地域等と連携した教育活動の情報を集約し、活動を評価する。年度末に個々の活動を振り返り、課題や継続を検討する場を設ける。 ②校内でのSNSの発信を周知する。部活動と行事の情報を更新しHPを充実する。また、学校説明会はオープンスクール形式に変更する。	①地域の行事を職員全体で共有することができたか。活動を通して教育効果を評価することができたか。 ②学校説明会のアンケートの結果、SNSやHPから本校に関心を持つようになったか。またオープンスクール形式で、生徒の活動の様子を知ることができたか。	①校内の地域等との活動情報の集約と評価を進めている。 ②SNSの投稿数については昨年度よりも大幅に増えた。新たに各工業科の授業の様子を投稿することができている。校内学校説明会は好評であり、オープンスクールについても生徒の普段の様子が分かり好評であった。	①情報を来年度の活動に生かすかを考える必要がある。 ②情報発信はこれまで同様継続して行っていく。来年度の学校説明会については、新校開校に向けて大井高校と連携して進めていく。	①生徒が地域で活躍する活動や地域との交流をSNSなどで広報することで、城北工業高校の志願者が多くなったり地域が活性化したりすることを期待したい。地元企業との連携、協働については、成功体験を積み場としても捉えて欲しい。 ②学校の魅力は生徒の生き生きとした活動にある。その意味で、オープンスクール形式の学校説明会は評価できる。 ②X（旧 Twitter）での情報発信は充実していると感じている。	①防災訓練への生徒の参加や課題研究における小田原市からの協力、ポスター等の制作など、地域貢献や地域連携を進めることができた。課題としては、工業高校としての地元企業との連携が少ない。 ①オープンスクールを実施することによって、中学生や保護者に生きた学校生活を見せることができた。 ②HPやX（旧 Twitter）での情報発信は、学校の活動が生き生きと伝わり、充実している。学科の特性もあるが、機械科や電気科の平素の取組も発信できる仕組みが必要である。	①地域の教育力を発掘し、その活用を追求する。また、地域への貢献活動を活性化させるとともに、地域連携の実績等を外部に向けて発信する。 ①学校説明会等、中学生への情報発信について、新校の魅力の発信方法等を検討する。特に普通科については大井高等学校と合同で検討する。 ②HPやX（旧 Twitter）での情報発信をさらに充実させる。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備や、地域を含めた防災体制の整備に取り組む。 ②風通しのよい職場、業務の共有・協働、効率化をめざし、働き方改革の推進や事故不祥事の未然防止を図る。	①生徒一人一人が防犯・防災に対し、当事者意識をもち、自ら考え行動できる意識付けを考慮した訓練等の実施・見直しを行う。ICT環境を整備し、生徒・職員が安心して利活用できる環境を整える。 ②日ごろからのコミュニケーションを大切にし、業務の効率	①防犯・防災意識を高められる訓練等を検討・実施する。同時に校内防犯・防災設備の確認と、使用方法の理解・実技訓練等も検討する。ICT環境においては引き続き利活用に適する環境の検討・整備をする。 ②積極的な声掛けや職員が主体的に取り組む研修	①アンケートにより当事者意識をもって訓練が出来たか等意識改善がみられたかを確認。防犯・防災設備等の実技訓練等ができたか。ICT環境設備の改善ができたか。 ②主体的な研修ができたか。事故・不祥事を未然に防止することができたか。	①3回の防災訓練を実施。アンケートから「災害の恐ろしさ」「事前の備えの重要性」について意識改革ができた。 ②不祥事防止研修において、テーマをグループに割振り、職員が講師を行うことによって、主体的・自分ごとの研修することができた。	①地域連携を意識した防災訓練の検討・準備をしていく必要がある。情報環境整備においてHDMI端子の故障改善策の模索・検討し実行につなげていく。 ②県教委が示すテーマで行ったが、本校の状況を分析し、発生しやすい事例をあげ、それについてデスカッションする研修も検討する必要があ	①3回の防災訓練の成果を、学校の危機管理マニュアルに反映し、実効性のある危機管理を推進してほしい。 ①県への予算要求や私費の活用も含めて、ICT環境整備を積極的に推進することを期待する。 ①意識改革ができたとの評価に対し、具体的にどのような行動に繋がっているかフォローしてもらうと良い。 ②管理職だけでなく、職	①3回の防災訓練や3.11を風化させない取組などを通じて防災意識を高めることができた。今後は防災意識を行動に移せるようになることが必要である。 ②自分ごととして捉えることを狙いとした事故防止研修を実施することができた。今後は県から指示に加え、適時性のあるテーマで啓発することが必要である。	①生徒の防災意識や心構えを醸成するとともに教職員のソフト面の防災管理体制を構築するために職員研修等を実施する。 ②適時性のあるテーマで、自分ごとととらえられるような事故防止策を構築し、事故防止に努める。

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月10日実施)	総合評価 (3 月21日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			化等に取り組む。 事故・不祥事防 止への啓発を行 う。	や 面 談 を 実 施 し、事故・不祥 事の未然防止を 行う。			る。	員自ら事故防止の講師を 行うことで当事者意識の 養成ができています。不祥 事防止研修については、 最新の事例を交えて継続 的に啓発を行うと定着す ると考える。		